

2025 年 9 月 24 日

各 位

株式会社三井住友銀行

株式会社明電舎へのコミットメントライン・シンジケーション方式による  
「サステナビリティ・リンク・ローン」の組成について

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留 朗裕）は、株式会社明電舎（代表取締役 執行役員社長：井上 晃夫/以下、「明電舎」）と、コミットメントライン・シンジケーション方式によるサステナビリティ・リンク・ローン（以下、「本ローン」）契約を締結いたしました。株式会社三井住友銀行はアレンジャーとして明電舎より指名を受け、本件を組成いたしました。

サステナビリティ・リンク・ローンは、借り手のサステナビリティ戦略と整合したサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（以下、「SPTs」）を設定し、貸出条件と SPTs に対する借り手のパフォーマンスとを連携させ、SPTs 達成への動機付けを与えることで、環境的・社会的に持続可能な経済活動及び経済成長を促進し、支援することを目指すものです。

明電舎は 1897 年創業の電気機械メーカーで、「より豊かな未来をひらく」というグループ企業理念のもと、国内・海外の社会インフラの発展に向けて事業活動を展開しています。同社は、2025 年 5 月に公表した「中期経営計画 2027」において、1.5℃シナリオに準拠した第三次明電環境ビジョンを発表しました。また、環境や人財についてもそれぞれに具体的な非財務目標を設定し、計画的かつ継続的に取り組みを進めています。

また明電舎は、2025 年 8 月に「サステナビリティ・リンク・ファイナンス・フレームワーク」（以下、「本フレームワーク」）を策定しています。本フレームワークでは、「中期経営計画 2027」で掲げられた非財務目標が SPTs として採り入れられており、サステナブルファイナンスの活用により、より実効性のあるサステナビリティ経営の実行につなげていくことが企図されています。本ローンでは本フレームワークに基づく SPTs を定め、達成への動機付けとして、SPTs 達成時に金利が連動する貸出条件を設定しています。

尚、本フレームワークは、国際金融業界団体である ICMA（International Capital Market Association）にて策定された「サステナビリティ・リンク・ボンド原則」、LMA（Loan Market Association）、LSTA（Loan Syndications and Trading Association）及び APLMA（Asia Pacific Loan Market Association）にて策定された「サステナビリティ・リンク・ローン原則」、環境省にて策定された「サステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン」、「サステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」において求められる項目について基準を満たしているとの第三者意見を、株式会社日本格付研究所（JCR）より取得しています。

株式会社三井住友銀行では、お客さまのサステナビリティ経営に向けたソリューションの提供や対話を行い、持続可能な社会及び市場の形成にも一層貢献を行ってまいります。

【本ローンの概要】

|        |                                             |
|--------|---------------------------------------------|
| 契約締結日  | 2025 年 9 月 24 日                             |
| アレンジャー | 株式会社三井住友銀行                                  |
| 貸付人    | 国内金融機関                                      |
| KPI    | 明電グループの GHG 排出量の Scope1、2 における削減率（2019 年度比） |

（参考）

株式会社明電舎ホームページ：

<https://www.meidensha.co.jp/>をご参照ください。

株式会社日本格付研究所（JCR）による第三者意見：

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>をご参照ください。

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

法人戦略部サステナブルソリューション室

TEL：03-4333-8260

このお知らせは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。